

ところざわの暮らし 今昔

⑩・最終回

4月は田仕事の開始～田んぼがたくさんあったころ～

桜の花が散って新緑が目にしみる4月から5月初旬にかけて、かつては市域のあちこちで田仕事が始まりました。今は田んぼもわずかとなりましたが、山口地区では今でも稲作が行われています。所沢で稲作が行われてきたことを証明するものとして、また文化的景観としても貴重で、後世に残していきたいものです。

市域で田んぼがあった所を昔の村名であげると、坂之下村・城村・本郷村・下安松村・久米村・林村・北野村・荒幡村・山口村・上山口村・勝楽寺村・三ヶ島村・三ヶ島堀ノ内村・靴谷村などです。昭和35年には155haの田んぼがありましたが、それ以後の約10年間に田んぼは激減していったのです。多くは、住宅地となり、新しい街が形成されました。

田んぼは、柳瀬川や東川流域、またその支流域にあり、農家は米作りにいそしんできました。所沢は田んぼの少ない土地柄、田んぼから取れる米は貴重で「田米」と呼んできました。畑で取れる「陸稲」に対して、特別にそう呼んだのです。

田仕事が始まるころになると、川に堰を張り水を溜めます。堰を築くことを「堰普請」といい、共同作業で行われます。昔からのやり方で、



▲東川上流の堰 (三ヶ島)

が溜まると水は小さな堀に分かれ、田んぼに入られます。そこになると、田のクロ(畔)を修理するクワツケ

や田うない(田起こし)の仕事が始まります。田うないは子どもも手伝い、親の仕事と一緒に手助けしました。

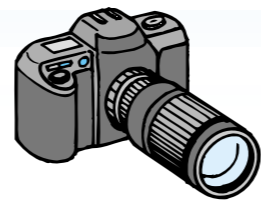
季節は子どもを慮にしました。堰張り後の川はあふれんばかりの水をたたえ、格好の釣り場となりました。ドジョウやフナ、エビガニ(ザリガニ)釣りに夢中になり、辺りからうるさいばかりにトノサマガエルの鳴き声が聞こえていました。(大詔)



▲田うない



▶所沢の街から、世界へははばくプレッシャーが誕生する予感? みんなの応援を受け、ポールを追いかけた1日。
2月11日(例)航空記念公園サッカー場



▲火災の犠牲者を1人でも減らすことを願って…。音楽を通じて火災予防の重要性を伝えた、市消防音楽隊による「吹奏楽出前演奏会」。
2月15日(水)老人憩の家 ところ荘ほか

街の写真館



▲伝統芸能を保存・継承している団体が、練習の成果を発揮した「所沢市伝統芸能発表会」。(撮影/市民カメラマン・西山元博)
2月26日(日)市民文化センターミュージズ・中ホール

みんなの広場

防災チェック

最終回



～あなたが守る家族の安全～

子ども：お父さん、学校のグループ研究で「地震の備え」について勉強するんだ。知っていることを教えて！
お父さん：そうだねー、たくさんあるけれど、阪神淡路大震災のことを考えてみようか。
子ども：わかった！テレビや家具の固定が大切だってことだよ。
お父さん：そうだね。でも、もっと大切なのは、倒れない家にするってこと！阪神淡路大震災では、家がつぶ

れて多くの人が亡くなったんだよ。
子ども：じゃあ、補強工事をして倒れない家にするってこと、テレビや家具を固定すればいいんだね。
お父さん：うん、それが大切な家族の命を守るための重要な対策なんだよ。
子ども：ぼくの家は大丈夫だよ！
◎阪神淡路大震災では、6,400人を超える尊い命が失われました。死者の87%は、住宅の倒壊や家具等の転倒が原因といわれています。住宅の耐震化、家具等の転倒防止を行います。問い合わせ 危機管理課(☎2998-9399・FAX2998-9042)



はつらつ ところ 野老 子

～「心の支え」の卓球人生～

福島 正子さん (下富在住)



勤を働かせた予備が勝負の鍵を握る卓球。昨秋開催された全日本卓球選手権大会マスターズ(60～64歳の部)に県代表として出場した福島さんは、3度目の挑戦で見事、念願の頂点に立ったのです。そして、平成17年度所沢市スポーツ大賞優秀選手賞にも輝きました。「あなたは小さいから卓球をやらない」。中学1年生のとき、バレーボール部だった福島さんは、顧問の先生からこんな言葉を投げかけられました。福島さんの卓球人生がスタートした瞬間です。高校のときには、福島県でシングル・ダブルス・団体の3冠チャンピオン、オールジャパンジュニアの3位となり、短大では全日本選手権ベスト8などの輝かしい成績を収めました。就職後もダブルスで全日本選手権準優勝と活躍。



華麗なフットワークで勝ち進む

そんな福島さんにも、「今までの卓球人生の中で一番悔しかった」と語る1戦があります。社会人時代、全日本選手権のベスト4を

けた戦い。相手は世界選手権に出場経験がある強敵。あと1本で世界選手権出場を手にするところで、勝利の女神は対戦相手に微笑んだのでした。結婚を機に会社を辞めた後、公務員として職務に従事する中、公民館で卓球教室を開催したり、卓球を通じて中国との交流を深めたりと、違った角度から卓球を続けました。定年退職後は、外部指導員として中学生の指導にもあたっています。「子どもたちには、何か夢になれるものを見つけてほしい」と願う福島さん。ご自身も、「卓球を夢中でやり続けていること」が一番の幸せであり、「私には卓球がある」という思いを心の支えに、どんな困難も乗り越えてきたそうです。卓球三昧の日々ですが、練習の間にはお茶を習う一面も。「動」の卓球に対して、「静」の世界も堪能しています。「先生の言葉がなかったら卓球をやっていたらなかったかも…。ひょっとすると、「卓球とは離れられない」と語るその姿を、恩師は予感していたのかもしれない。次の舞台は5月にドイツで開催される世界ベテラン大会。福島さんの卓球人生にゴールはありません。

ところざわの町内会めぐり

最終回

【所沢市自治連合会】

～安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して～

所沢市自治連合会は、昭和53年1月に結成されて以来、地域のコミュニティづくりのため、さまざまな事業に取り組んでいます。近年、街頭犯罪や侵入盗、子どもを狙った犯罪等が多発しています。市内でも空き巣やひったくり等、生活に身近なところで犯罪が発生しています。

こうした犯罪を防止するため、平成17年度の事業計画に「安全で安心して暮らせるまちづくりの推進」を掲げ、10月には千葉絃子さんを迎えて、市・所沢警察署・所沢市防犯協会との共催による講演会を開催しました。また、11月には積極的な防犯の取り組みをしている新潟県上越市を視察しました。そのときに上映されたビデオテープを、当市の地域の安全・安心なまちづくりの参考に活用していただくよう、11地区自治連合会に配付しました。

さらに、犯罪を抑制するため、『みんな見てるぞ!』の標語が入った電柱幕(反射幕)を作成し、各地区自治連合会に配付しました。昔からよく、「遠くの親戚より近くの他人」といわれます。「いざ」というときには、お隣さんや近所の人たちが一番頼りになるものです。



地域を守るために

これからも地域でのふれあいの輪を広げ、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、市・事業者・地域住民の皆さんと一層の連携を図っていきます。ぜひ、自治会・町内会に加入しましょう。

家族 宮本町・竹内 和枝
6人家族が六畳一間で暮らす外国の様子をテレビで観た。子どもは学校へ行けず、ごみの分別の仕事をし、1日150円にも及ばない賃金を全部親に渡していた。屋敷は、わすかなおかずを切り分けて、皿に取ったご飯と一緒に食べている。30歳の暮さの中で、毎日、ごみの缶を拾って仕事をしている幼い子どもたちはあまりきれいではない海に飛び込んで暑さをしのいでいる。飢えと暑さに耐えられないはずなのに、子どもたちの瞳は澄んでいて、子どもも大人もカラオケが大好きで、1日10円で歌うのが楽しみたいという。日本の青年が歌う子どもたちはじっと聴き、終わると笑顔を見せる。自分も母親で負い生活に耐えてきたが、もっと苦しい生活をしている人たちがいると考えさせられた。同時に三食を得ている幸せを父母に感謝してゐる。

無限の絆 久米・米丸 正義
現役時代は仕事一筋で、朝は子どもたちが寝ている間に家を出る。夜はほとんど午前中という生活で、家族という実感があまりなかった。定年退職後は、2人の子ともたちも自立し、年に数回、家族全員がが家に集まりの絆を深め合っている。私たちが子どもたちに何かあると、わがごとくのように思う。子どもたちも私たちが夫婦に何かあると、自分たちのことのように思ってくれる。これが家族というもの、血のつながりを深く感じ、広い世間の中で、家族という無限の絆を確かめ合っています。

幸せな猫 土安松・三村 絹代
2人の娘はすでに結婚している。下の子が結婚したとき、「お母さんが寂しいでしようから」と、静岡から子猫を抱いて連れてきた。その子猫が大きくなり、家の中をのりまわるときは、その足元を「わがりのな、前を通るとすべに、だれかかまわすカリッと爪を立てる。こたつの中でするとい爪を立てられ、あまりに痛いのでだいてやりたくもなるが、味が入って止める。そんな猫でも、朝はお勝手にいる旦那さんの足下をクルクルと回り、それこそ「猫なで声」で、はんぺんが焼き上がるのを待って催促している。家族の話は、もっぱら猫の話ばかり。「シローちゃん、シローちゃん」とかわいがってもらっている姿に、「本当に幸せな猫だなあ」と感じている。

誰でてもイ

テーマ 家族



次回のテーマは「勇気」です
▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「勇気」▶締め切りは4月7日(金)必着▶住所・氏名・年齢▶電話番号を明記▶送り先: 〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係▶Eメール (アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp) も可。